

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (四国)	◎	コンビニ（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加するなか、懸念していた売上高、来客数は共に順調であった。
	○	商店街（代表者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染第7波の新規感染者数はピークを迎えていると思われるが、客は感染対策をしつつ少しずつ動き出している。感染者の行動自粛期間等の緩和措置により、多少なりとも活発になり始めている。
	○	スーパー（人事）	お客様の様子	・観光やレジャーの利用が増えていることがプラス効果となっている。
	○	コンビニ（店長）	来客数の動き	・これまで客単価は上昇していたものの、来客数は横ばいであったが、8月は来客数が増加に転じた。
	○	コンビニ（総務）	来客数の動き	・コロナ禍で初めて行動制限のないお盆を迎え、人の往来が活発になっている。祭りや帰省、観光でにぎわい、売上が目に見えて伸びた。
	○	衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の発生前と比べると厳しい水準だが、まん延防止等重点措置の解除後は徐々に回復しており、前年比130%前後になると見込んでいる。
	○	観光遊園地（職員）	来客数の動き	・行動制限がなかったことでイベント開催や観光客の増加につながった。
	○	美容室（経営者）	来客数の動き	・行動制限も無く、お盆期間中はかなり人が動いたと思う。コロナ禍で帰省がかなわなかった人も今年は帰ることができ、当店も来客数が多く多忙であった。
	○	美容室（経営者）	お客様の様子	・コロナ禍の生活にも慣れてきて、客の行動が活発化している。
	□	商店街（事務局長）	販売量の動き	・一部の高額品市場を除いては、リベンジ消費と言えるような強い消費動向を感じることはできない。行動制限がないにもかかわらず、急激な物価高に対する消費者の生活防衛色が強まり、経済的に余裕のない様子が見て取れる。
	□	一般小売店〔生花〕（経営者）	来客数の動き	・来店者数は新型コロナウイルス感染症の発生前の水準まで戻っていない。一方で、インターネット注文が増えている。
	□	スーパー（企画担当）	単価の動き	・引き続き、値上げ前の買い回りがみられる。
	□	スーパー（統括担当）	販売量の動き	・物価が上昇し、商品価格が高騰しているものの、買い控えは特に感じられない。
	□	スーパー（財務担当）	販売量の動き	・メーカーの値上げと販売数量の減少が相殺される形となっている。
	□	コンビニ（商品担当）	それ以外	・電気代や燃油代の高騰で、販管費がかさんでいる。
	□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加傾向にあることから、来客数が減少している。
	□	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響がどこまで続くか分からないが、現状は前年と変わっていない。
	□	家電量販店（店員）	販売量の動き	・購入意欲はあるが、値段を見て見送るケースが増えている。
	□	家電量販店（副店長）	来客数の動き	・猛暑のなかでも夏物商材の売上が思うほど上がっていない。新型コロナウイルスの第7波の感染拡大以降、年配の方の来店が減ってきている。
	□	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・半導体不足等で納期が早く6か月から1年以上になる車も多数ある。良くも悪くもない状況が続いている。
□	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・車の納期が長期化している状況が当たり前になり、受注は落ち着いている。新型車の発表もあるが、納期が確定しないため積極的に受注できない。	
□	その他小売〔ショッピングセンター〕（総務部担当部長）	販売量の動き	・今年は地元の祭りが開催されたことから、その期間中は売上が好調であった。しかし、その期間を除けば売上に動きはなく、新型コロナウイルス感染症の発生前と比べると売上、来客数共に低い水準にとどまる。	
□	都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大による来客動向が読めない。	

	□	競輪競馬 (マネージャー)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの第7波の新規感染者数が高止まりしており、遊興への行動にブレーキが掛かっている。
	□	設計事務所 (所長)	お客様の様子	・建築費の高騰が続いているなかでも、設備投資をする客は増えている。
	▲	商店街 (代表者)	お客様の様子	・コロナ禍では円安と低金利政策だけが零細企業を支えていたが、海外での利上げ政策の影響を受け、国内でも金利上昇の懸念が高まっている。
	▲	一般小売店 [書籍] (営業担当)	販売量の動き	・8月は店頭、外商共に売上が前年を下回っている。
	▲	スーパー (店長)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染再拡大によりお盆の帰省客や観光客が少なく、来客数が見込みを下回った。
	▲	スーパー (店長)	来客数の動き	・客単価は上がっているが、それ以上に来客数、来店頻度が落ちている。
	▲	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・生産台数の回復が遅れて登録台数が伸びず、売上につながらない。
	▲	観光型旅館 (経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染第7波により、県民割が停止に追い込まれた。特に9月以降の宿泊予約が伸びない。
	▲	旅行代理店 (営業担当)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大が続き、個人客に少し動きはあるが、修学旅行以外の団体客の動きは止まっている。
	▲	通信会社 (営業部長)	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の影響で、来客数は前月と比べても前年同月と比べても下がっている。従業員にも感染者が増えていることから、営業縮小を図っている。
	×	商店街 (代表者)	来客数の動き	・当地域では3年ぶりに夏の祭りが開催され、かなりの人出があった。その影響から新型コロナウイルスの新規感染者が爆発的に増え、来街者数が抑えられている。特に飲食店では厳しい状態が続いている。
	×	一般小売店 [酒] (販売担当)	販売量の動き	・当地域の祭り開催までは飲食店への納品が少しずつ増加していたが、その後は新型コロナウイルスの新規感染者数の急増で人出が大幅に減少し、売上が減っている。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・当地域では祭りが開催され、県外客も増えて宿泊施設への送迎もあった。しかし、その後は新型コロナウイルスの感染再拡大により夜の街は閑散としており、昼間も良くない。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・例年、夏は遍路客が減少する。また、夜の街へ人が出なくなっていることから乗車率が低下し、売上は厳しい状況にある。
企業 動向 関連 (四国)	◎	—	—	—
	○	繊維工業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・猛暑が続いたことや全国の観光地に人出があったことなどから夏用のタオルがよく売れている。外国人観光客はまだ戻っていないが、国内の観光地では6~7割程度まで回復している。一般小売店では、多少価格が高くても魅力的な商品を求めており、新型コロナウイルス感染症の収束後に向けて前向きな動きもある。当社では扱っていないコンサート用のタオルやインバウンド向けホテルの需要はまだ厳しいようだ。
	○	木材木製品製造業 (営業部長)	受注量や販売量の動き	・受注量は安定して伸びているが、原材料価格の上昇が利益を圧迫している。販売価格の改定交渉を進めているが、原材料価格の上昇が止まらず転嫁が追い付かない状態が続いている。
	○	電気機械器具製造業 (経営者)	受注価格や販売価格の動き	・原材料価格が高騰するなか、代替品への置き換えが進み、状況は良くなっている。
	○	輸送業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の感染状況は悪化しているが、客はコロナ禍の生活に慣れてきている。
	○	通信業 (企画・売上管理)	受注量や販売量の動き	・行動制限が無いため、夏場のテレビ広告は3か月前と比べて堅調。
	○	金融業 (副支店長)	取引先の様子	・行動規制がなくなったことで観光客が増加し、小売業を中心に景気は回復している。
	□	食品品製造業 (商品統括)	受注価格や販売価格の動き	・価格アップを許容する土壌ができつつある。
	□	化学工業 (所長)	それ以外	・ウクライナ情勢の長期化もあり、依然として実需が増加している感触がない。

	□	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・半導体不足による調達環境の悪化や原材料価格の高騰、円安の進行に加え、ウクライナ問題などの影響で、状況は厳しさを増している。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・国土強靱化予算の執行により受注、発注共に堅調に推移しており、本業については現状維持の景況感が継続している。新型コロナウイルスの感染第7波の影響により、業界や社内では行事等の中止や規模縮小がまた生じている。さらに、社員の感染や濃厚接触者数の増加で事業活動への影響も出てきている。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ここ数か月、官民共に受注が伸びない。
	□	輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・依然として取扱物量が減少傾向にあり、回復の兆しがみられない。
	□	輸送業（経理）	受注量や販売量の動き	・お盆前まで荷動きは堅調に推移していたものの、お盆明けは出荷量が落ち着いており、大きな変化はみられない。
	□	通信業（総務担当）	それ以外	・社外イベント等も順次再開されつつあったが、行動制限のないお盆期間を経て新型コロナウイルスの新規感染者が急増したことに伴い、一時的な自粛傾向が強まると想定される。
	▲	税理士事務所	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大により、再び購買意欲が減少しているように感じられる。また、感染した従業員が増えて仕事に支障が出ているところも多い。
	×	農林水産業（職員）	受注価格や販売価格の動き	・卸売価格は、果実と花木はまずまずのところだが、主力の野菜が大きく低迷しており、園芸品全体では厳しい販売が続いている。特に、順調に出荷が続いている果菜類の価格が低調である。
	×	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・受注量は前月同様まずまずではあるが、新型コロナウイルスの新規感染者や濃厚接触者の自宅待機が急増していることから、生産販売に多大な影響を受けている。
雇用 関連  (四国)	◎	—	—	—
	○	*	*	*
	□	民間職業紹介機関（所長）	求人数の動き	・物価上昇や新型コロナウイルス感染症の影響で、景気は予想以上に回復できていないように感じる。
	▲	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・県内で新型コロナウイルス感染者が増え、派遣を依頼する求人数が減ってきている。
	▲	求人情報誌（営業）	求人数の動き	・企業の求人数は横ばいで、その多くで採用には至らず、人手不足感がある。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・燃料費や資材の高騰により仕入額が上昇しつつあるが、価格転嫁は難しい。客の理解は得られるだろうが、買い控えにつながると思う。
	▲	職業安定所（求人開発）	採用者数の動き	・新規求人数、新規求職申込件数、就職件数が前月比で減少している。新型コロナウイルスの感染再拡大の影響が出ている。
	×	—	—	—